

あさの ちゃんねる

医療法人社団 浅ノ川

浅ノ川総合病院 広報誌

2016年夏号(年4回発行)

元気のある病院
元気のできる病院



高齢化社会における療養病棟の役割

特任副病院長 兼 内科部長 兼 療養センター長

たかさき
高崎

ひであき
秀昭

今年のリオデジャネイロオリンピックに次いで、2020年はついに約半世紀ぶりに東京でオリンピックが開催されます。前回の東京オリンピックで活躍された世代の方々もいつしか人生の終熟期を迎えようとしております。2025年には、団塊の世代が後期高齢者となり、4人に1人が75歳以上という超高齢社会が到来するといわれています。そんな中、現在、日本人の平均寿命は、男性80.5歳、女性86.8歳で、50年前の男性65.3歳、女性70.2歳と比べると隔世の感があります。一方、健康寿命との差は、むしろ年々広がっており、男性で9.1歳、女性で12.7歳と平均寿命と約10年の開きがあるのも現実です。特に近年問題となっているのは、認知症の方の増加です。現在は、65歳以上の方で、推定462万人いると言われ、今後、2025年には700万人に達するとも言われています。このように急性期医療が年々進歩していく中、立ち止まって考えると高度な医療というのは、そのすべてが果たして健康寿命を幸せな形で延ばしてくれているのかという疑問に突き当たることがあります。当院ではこれまで、定位放射線治療ノバリスなどの先端治療に力を入れるとともに、早くから、急性期以外の亜急性期、慢性期病棟という形で、様々なニーズに対応できるように病棟を整備してまいりました。2014年10月からの地域包括ケア病棟は、2016年10月には病床数を増やし、在宅への復帰支援に向けて更なる充実を目指しています。また、慢性期病棟としての療養病棟も強化型療養病棟を目標として、日々変革を迫られています。急性期病床からの受け入れは勿論、地域の方のニーズに応じて、在宅医療の方の受け入れや在宅復帰にも力を注いでおります。また、重症度のより高い患者さんの受け入れも求められています。これまでには、ある意味、急性期病棟からの受け皿的存在となっていましたが、これからは急性期医療からの医療の継続も要求される医療情勢となってきております。しかし、様々な情勢が変わろうとも、浅ノ川総合病院の理念の原点“思いやりのある医療”は決して忘れてはならないと考えています。人生最後の10年をどのような形で迎えるかということは、極めて重要な問題であります。たとえ、それが病院であってもその方にとって、“浅ノ川総合病院で過ごした時間が最高だった”と思っていただけるように、スタッフ一同これからも全力を尽くしていきますので、今後とも何卒よろしくお願ひいたします。



病院の理念

「皆様の信頼を得る、思いやりのある医療を提供します。」

病院の方針

- 新しい知識と技術を身に付け、質の高い医療を提供します。
- 患者の皆様にやさしい、活気にあふれる病院を目指します。
- インフォームドコンセント(説明と同意)に基づいた治療を行います。
- 地域の医療機関との連携を深め、地域医療の充実に貢献します。
- 安全性を考え、責任の持てる医療を提供します。

Pick UP!

診療科トピックス 外科

特任副病院長・外科部長 中野 達夫



外科が扱う疾患は、表のごとく多彩です。特に、日本人の死亡原因の第1位は癌であり、癌にかかる方は次第に増えています。当院は病院を挙げて癌治療に取り組んでいます。

診断に関しては特殊光を用いた消化管内視鏡、マルチスライスCT、3.0テスラMRI、PET-CTなど最新の診断装置を用い、消化器内科・外科・放射線科などが連携して行っています。

【外科が扱う疾患】

癌	食道癌 / 胃癌 / 大腸癌 / 肝臓癌 / 脾臓癌 / 胆道癌 / 肺癌 / 乳癌 など
良性疾患	胆石 / 膵炎 / ヘルニア / 痢 / 虫垂炎 など
腹部救急疾患	腹部外傷 / 腸閉塞 / 潰瘍穿孔などの腹膜炎 など

当科では、癌治療に関しては手術的に癌をすべて取り去ることが最も根治的な治療と考えています。患者さん個人個人の全身状態、癌の進行具合を考慮したオーダーメイドの治療を行っています。すなわち進行癌に対してはしっかりとリンパ節郭清を行う手術、転移の可能性の少ない早期癌では縮小手術や機能温存手術を行っており、特に腹腔鏡あるいは胸腔鏡を用いた手術を積極的に取り入れています。そして、手術機械の進歩に合わせて、新しい機械の導入を行っています。

学会への参加も、新しい知識や技術を得るためにには必須です。毎年大きな学会には必ず出席し、当科の治療成績を発表するとともに新しい知識を得て、技術を磨いています。

また手術を補助するものとして、定位放射線治療装置(ノバリス：日本で最初に当院が導入)による放射線治療や抗癌剤治療などとも組み合わせて、個々の患者さんに最適な治療法(オーダーメイド医療)を提供できるよう努めています。

病棟ではスタッフ(看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、管理栄養士、ソーシャルワーカー)と、合同カンファレンスを毎週行い、情報を共有し、入院から退院まで必要なケアについて話し合い、退院を支援しています。当院ではこのようなチーム医療を推進していますが、外科医が栄養サポートチーム、緩和医療チーム、感染対策チームの中心として活動し、患者さん、御家族と向き合って最良の治療法と一緒に考えています。

外来化学療法センターは外科の尾島英介医師がセンター長として、最新の抗癌剤治療ができる体制を整えています。

患者さんと最初に接することが多いのが外来です。医師も外来看護師も笑顔で優しい接遇を心がけています。また、乳線外来(月～木)、ヘルニア外来(毎日)の専門外来もあり、きめ細やかに対応を行っていますので、安心して受診してください。



金沢城リレーマラソンにて

連携登録医のご紹介

今回は、金沢市弥勒町の『的場医院』を
ご紹介いたします。

平成5年に的場病院を継ぎ、現在は「的場医院、デイケアあんやと、小規模介護老人保健施設あんやと」になっています。

診療では、循環器専門医として高血圧症、心不全、不整脈、動脈硬化、脂質異常症などの治療にあたっています。高齢者が増えるなか、認知症やフレイル（虚弱老人）の治療や介護相談に老年病専門医と認知症サポート医として尽力しています。特にデイケアでは作業療法に力をいれ、老人保健施設ではリハビリテーションに力をいれています。また、胃内視鏡検査や超音波検査で消化器系の診療もしています。もちろん在宅医療にも週1回出かけています。その他、産業医や学校医として地域と係わっています。

当院は浅ノ川総合病院に近く、紹介、検査、入院と平素より大変お世話になっており本当に感謝しております。

これからも宜しくお願いいたします。



[院長 まつば むねとし 的場 宗敏 先生]

的場医院

院長：的場 宗敏

診療科：内科、循環器科、呼吸器科、
消化器科

診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:30	○	○	○	○	○	○	/
14:00～18:00	○	/	/	/	○	/	/
16:00～18:00	/	○	○	/	/	/	/

休診日：木曜・土曜午後、日曜、祝日

※ 訪問診察

火曜日・水曜日 14:00～16:00

※ 年末年始・夏期休暇・学会出席などで臨時休診
や診療時間が変更になる場合があります。

住 所：〒920-3115

石川県金沢市弥勒町二 1 番地 1

電 話：076-257-0011

F A X：076-257-1010

駐車場：医院裏にあり

アクセス：JR 森本駅より徒歩 3 分



医院外観

連携登録医

地域の医療機関と浅ノ川総合病院の相互連携を一層緊密にし、適切で切れ目のない医療の提携を目指して新たに開始された「連携登録医制度」に登録していただいている医療機関の先生方です。

病棟紹介 本館4階病棟

本館4階病棟は、整形外科・眼科・産婦人科の混合病棟です。手術が必要な患者さんの健康を推進し、赤ちゃんとの関係形成初期の重要な時期にある母子が入院しています。

私達働き手の視点でいえば、混合病棟で行われる医療や看護はそれぞれの診療科について幅広く学べるというメリットがあります。また、生まれたベビーや褥婦、加齢による運動機能不全(ロコモティブシンドrome)が原因で骨折した高齢者の方や、認知症を抱えた患者さんなど、様々な人生の過程にあるその人をケアすることができます。

患者さんのこれまで歩んできた人生やその人の思いに触れること、その際に一緒に過ごした時間や笑顔は私たちを癒してくれています。これは、看護の醍醐味だと思います。私たちはそういった患者さんを安全・安楽に、心地よく入院生活を過ごすことができるよう、スタッフ一同、患者さんの立場に立ち、患者さんに寄り添ったケアを目指して、日々頑張っています。



産科センターで出産を!!

産科センターは院内唯一の生命の誕生の場です。出産は何より安全が確保されることが必須です。現在助産師は新生児蘇生法の認定やロイヤルベビーマッサージ基礎講座終了・骨盤ケア認定などの資格を持ったスタッフが8名います。病棟看護師と協力し体制を整えています。

病室の妊婦さんが快適に過ごせるように、トイレとシャワーが完備された個室で過ごしていただいています。出産はLDR:labor(陣痛)delivery(分娩)recovery(回復)という陣痛開始から出産まで同一の部屋で過ごすことができ、家族にも見守られる中でリラックスして出産を迎えることができます。産後は母児同室で赤ちゃんと一緒に過ごすことができると好評です。出産直後よりカンガルーケアを行い、母児育児を促進しており退院時にはほぼ母乳栄養となり、母としての自信を持って退院していかれます。

産前には個人指導はもちろん、骨盤教室、育児教室、安産教室、産後には母乳外来、ベビーマッサージなどを行い、妊娠褥婦の包括的ケアに取り組んでいます。時代は産前産後のケアの切れ目のない子育て支援を推進しており、当院でも地域の方々に満足していただけるように日々邁進しております。





がんサロン せせらぎ

毎月第4木曜日
開催します!



今後もいろいろな企画を
予定しています!

サロンは、がん患者さんや家族の語らいの場です

不安や悩みなど、気軽に語り合う場です。お話することで、気持ちが軽くなったり、力がわいてくることもあります。がん患者さんやそのご家族であれば、どなたでも自由に参加いただけます。お気軽にお立ちください。



参加者からの声

- ♡ がんについて、先生から詳しく聞くことができてよかったです。
- ♡ 家族が参加しても良いのですね。いつも心配ばかりしているので、リフレッシュと勉強になりました。
- ♡ 色んな職種の人がいて、気になったことを何でも聞ける雰囲気がとても良いです。
- ♡ がんと戦うのがキツくてもう楽になりたいと時々めげてしまうけど、ここに来ると何かホッとします。仲間がいるから。
- ♡ 家で悪いことばかり考えていたけれど、ここへ来るようになって少し前向きな気持ちになりました。
- ♡ 先生が来ていらっしゃると、支えられている感じがして嬉しくなります。この病院にかかるって良かったなと思います。

～演奏者の方から～

このたびは「がんサロン」に声をかけて
頂きありがとうございます。聴衆の皆さん
が真剣に自分の演奏を聞かれていて、
緊張で間違えたりしました。

サロンの雰囲気は温かいですね。病院
のみなさん患者さんたちのお蔭で、音楽の
素晴らしさを実感することも出来ました。
ありがとう。

お問い合わせ 浅ノ川総合病院 がん相談支援室 TEL 076-252-2101 ホームページもご覧ください。

当院の災害医療チームを 熊本県に派遣しました。

5月6日(金)、当院で災害医療チームの出発式を行いました。当日は、石川県医師会長の近藤先生より激励の言葉をいただき、その様子はテレビや新聞でも取り上げられました。

その後、内科 米山医師をリーダーとした当院の災害医療チームは、5月9日から5月14日まで、現地で被災地の医療支援を行いました。

改めてこの度の熊本地震により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。皆様の健康と、一日も早い復興をお祈り申し上げます。



青木 徹哉 先生



周藤 高 先生



「第8回定位放射線 治療セミナー」開催

第8回目となる定位放射線治療セミナーを平成28年6月10日(金)に金沢ニューグランドホテルで開催しました。北陸・甲信越から多数の参加を賜り、盛況な会となりました。

基調講演は、なるわクリニック 副院長 青木 徹哉先生が「肺癌の定位放射線治療」について話されました。

特別講演は、横浜労災病院 脳神経外科 周藤 高先生が「頭蓋内疾患に対する最善の治療を目指して-定位放射線治療と手術の両方に携わる立場から-」について講演され、外科手術と定位放射線治療両方の現状や連携、最新の話題について話されました。

講演会終了後には情報交換会が開催され、参加者同士親睦を深めました。

今後も当院は定位放射線治療の充実と連携を推進していきます。

「春の健康フェア2016」開催しました。

平成28年5月13日(金)、恒例の「春の健康フェア」を当院で開催しました。

骨密度、血糖値などを無料で行う健康チェックには、200名を超える方に参加していただき、大好評に終わりました。看護師、管理栄養士による健康相談や栄養指導では、日頃の生活習慣や食事などについて、熱心に聞かれる来場者の姿が多く見受けられました。

公開健康講座では、今回初めて結成したあさのがわ糖尿病小劇団と当院職員の劇団 大薔薇屋による「糖尿病ってどんな病気?」と題した講演・寸劇を行いました。来場者からは“おもしろかった、とても分かりやすかった、これからも続けてほしい”などのコメントをいただきました。

当院ではこのような行事を通じて地域の皆様と交流し、「あさのちゃん」共々愛され、信頼される病院を目指していきたいと思います。今後も、皆様のご来場をお待ちしております。

健康チェック・健康相談コーナー



公開健康講座

あさのがわ糖尿病小劇団と大薔薇屋
「糖尿病ってどんな病気?」



金沢城リレーマラソンに参加しました。

平成28年5月15日(日)、晴天に恵まれた金沢城公園において、第15回「利家とまつ」金沢城リレーマラソンが行われました。今年も職員は、お揃いの「あさのちゃんTシャツ」を身にまとい、タスキをつなげて完走することで、その絆がさらに深まりました。



かみしま
上島 雅子 看護師

感染管理認定看護師に聞きました！

Q1：「感染管理認定看護師」について教えてください。

A：看護師が感染管理に積極的に取り組む意義は、看護師は患者さんの最も近くに存在し、処置やケアを行ったり療養環境を整えたりしているため積極的に感染対策に参加できるからです。院内感染が問題となる昨今、感染管理認定看護師の必要性が高まっています。これは「感染管理学」、「疫学」、「統計学」、「微生物学」、「感染症学」、「医療管理学」、「医療関連感染サーベイランス」、「感染防止技術」、「洗浄・消毒・滅菌」など感染に関する知識を習得し、日本看護協会によって認定された資格です。2016年7月現在、石川県に45名(全国では2,560名)の感染管理認定看護師がいます。

Q2：どのような活動をしていますか？

A：感染管理の目的とは、患者さんやご家族や訪問者はもちろん、現場で働く全ての人を感染から守ることです。医療に関連した感染の予防に努め、感染発生時はその拡大を防止し、早期に終息を目指します。感染対策チームで院内のラウンドの実施、感染管理教育、感染管理に関する相談を受けています。また、院内感染がどのくらい起きているのかを調査・報告しています。

Q3：やりがいや苦労は？

A：全職種が行うべき標準予防策*の徹底が非常に難しいと感じます。感染管理認定看護師として直接患者さんに接することはあまりありません。患者さんに接する医療従事者の方が感染対策に興味を持ってくれたり、療養環境改善について一緒に考えてくれたり、アルコール手指消毒剤を身に着けてくれて手指消毒をしている姿などを見るとうれしくなります。協力してくれる仲間が増えた気がしますので、こういう時にやりがいを感じ、ふっと笑顔になってしまいます。



*標準予防策…すべての湿性生体物質は伝播する病原体を保有していると考え、患者および周囲の環境に接触する前後には手指衛生を行い、血液・体液・粘膜などに曝露するおそれのあるときは個人防護具を用いること。

編集後記

2016年の国民の休日が1日増えたことを皆さんご存知でしょうか。

8月11日の「山の日」がまさにその日でした。平成8年に「海の日」が祝日として制定されてから早20年も過ぎていることに驚きですが、どちらも自然に対してその恩恵に感謝する日と定義されています。地震や洪水など、自然の驚異も知っているからこそ、自然という偉大な産物に感謝していくことが必要なのでしょうか。

といったものの、我々としては実際に何かをする日ではなく、さらにその恩恵を受けて、休みをとる日

が増えることで喜んでいるのが現実でしょうか。有給取得率が世界でワースト1という日本ですから、祝日を大いにリフレッシュとして活用したいですね。

私、あさのちゃんは夏が苦手で、活動もめっきり減りますし、山にも海にも行ったことがないのが残念です。いつか写真集を出すならば、自然の中で撮影したいですね。



問い合わせ先

広報誌に関する質問・投稿・ご意見などは広報室へお願いいたします。

TEL 076-252-2101(代) メールアドレス : kouhou-1204@asanogawa-gh.or.jp